10月6日　　フィリピの信徒への手紙1章20～21節

「生きることはキリストである」

私たちは日々、様々な出来事・きっかけから「生きる」ということがどういうことなのかを考えることがあります。特に逝去者記念礼拝を控えるこの時期だからこそ、そのように感じるのだと思います。「生きることとは信仰であった」と断言できるような、振り返ってみてそのように断言できるほどの人生を送ることが出来れば、どれほど幸せなことなのでしょうか。

今日の聖書個所でパウロは「生きることはキリストである」と言っています。パウロは、自分の人生の軸をイエス様の中に見出したようです。この個所は元々の文章には「動詞」が含まれていないので、パウロがどういう意図で書いた言葉なのかがうまく確定できていません。ただ、私たちはこの人生をもって、イエス様のことを感じながら、イエス様のことを証ししながら歩み続けることができるのです。

ここで、パウロが語る「生きることはキリストである」という言葉は「死ぬことは益なのです」という、「死を肯定する」言葉に続いています。パウロは、死ぬことによってより大きな喜びが待っていると語っているのです。それはパウロにとって、死の後にイエス様に会うことができる、約束された復活の命を体験することができるという意味での喜びでありました。

皆様もこのような、「死の先に対する希望」は持っているでしょうか。私の場合は、死の先に「答え合わせが待っている」ことを楽しみにしていたりします。聖書では死後に神様の前に出る機会があると書かれていますから、私たちの信仰が正しかったのか、神様が本当にいて、イエス様が本当に復活して、神様の右に座しているのか、私たちが今持っている信仰が「正しいのかどうか」を、その時に知ることが出来るはずです。世界には様々な宗教があり、それぞれの信仰がありますから、「全ての人が正解であった」という結果にはならないでしょう。そして、「完全に正しい信仰を持っていた」という人も、イエス様を除けばいないと思います。私たちの信仰も、「弟子たちが・私たちが解釈を間違えている」可能性もありますから、すべてが正解というわけにはいかないと思います。実は神様の名前は「ヤハウェ」という発音方法ではなく、日本語を使う私たちでは発音できない複雑な名前かもしれませんし、カトリックのような儀礼的な礼拝方法が正解の可能性も、我々プロテスタント教会の礼拝のように、出来る限り聖書の言葉に集中できる形の方が好ましい可能性もあります。神学的に分かれてしまっている様々な問題も、特に教派によって意見が分かれる聖餐式や洗礼にまつわる様々な疑問も、神様のもとで正解を教えてもらえるのでしょう。それを私は楽しみにしているのです。

今日の個所に示されているように、私たちの信仰では、死とは終わりではなく、その先があるものとして受け止められています。だからこそ私たちは、死を恐れないでいられるわけではありませんが、「いつ死ぬか分からない人生」でありながらも、生きることに絶望せずにいられるのだと思います。私たちの命は神様に支えてもらっている命であり、だからこそ最後の時まで生き続ける必要があります。神様が望む「善く生きる」という生き方と、「誰かのためになる」生き方によって、私たちはこの人生を、最後の瞬間まで、より良いものにし続けることが出来るのです。その希望を胸に抱きながら、今週一週間の歩みを、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：フィリピの信徒への手紙1章20～21節

- 20:そこで、私が切に願い、望んでいるのは、どんなことがあっても恥じることなく、これまでのように今も堂々と語って、生きるにも死ぬにも、私の身によってキリストが崇められることです。私にとって、生きることはキリストであり、死ぬことは益なのです。

- 22:けれども、肉において生き続けることで、実りある働きができるのなら、どちらを選んだらよいか、私には分かりません。この二つのことの間で、板挟みの状態です。私の切なる願いは、世を去って、キリストと共にいることであり、実は、このほうがはるかに望ましい。しかし、肉にとどまるほうが、あなたがたのためにはもっと必要です。こう確信しているので、私は世にとどまって、あなたがたの信仰の前進と喜びのために、あなたがた一同と共にいることになると思っています。そうなれば、私が再びあなたがたのところに行くとき、キリスト・イエスにあるというあなたがたの誇りが、私ゆえに満ち溢れるでしょう。ひたすらキリストの福音にふさわしい生活を送りなさい。そうすれば、行ってあなたがたに会うにしても、離れているにしても、私は次のことを聞けるでしょう。あなたがたが一つの霊によってしっかりと立ち、福音の信仰のために心を一つにして共に戦っており、どんなことがあっても、敵対者たちにひるんだりはしないのだと。このことは、彼らには滅びのしるし、あなたがたには救いのしるしです。これは神によることです。なぜなら、あなたがたには、キリストを信じることだけでなく、キリストのために苦しむことも、恵みとして与えられているからです。あなたがたは、かつて私について目にし、今また聞いているのと同じ苦闘を続けているのです。